

フォーラム2019

会場：千代田放送会館（東京都千代田区紀尾井町 1-1）

3/6[水]

英米メディア 新たな地域サービスをめざして

- Part I** 研究発表 13:00~
BBCスコットランド新チャンネル誕生!
- Part II** シンポジウム ~15:15
競争から協力へ 米国地域メディア連携の動き
- 研究発表 15:30~16:15
米国 地デジ次世代規格ATSC 3.0 最新状況

3/7[木]

- ワークショップ 10:00~11:30
WEB式世論調査の可能性
- 研究発表 シンポジウム 13:00~14:15
世論調査から探る人々のニュース・情報選択
- ワークショップ 13:30~16:00
NHKドキュメンタリーから聞こえる声
- 研究発表 14:30~15:15
有料動画配信はどこまで拡大するのか
- 研究発表 シンポジウム 15:30~17:10
これからの“放送”はどこに向かうのか?

3/8[金]

- シンポジウム 10:00~12:00
東京パラリンピック 共生社会実現と放送の役割
- 研究発表 13:30~14:30
「日本人の意識」調査にみる45年の変化
- シンポジウム 14:45~17:15
検証 100% 朝ドラ!! 視聴者と歩む 過去・現在・未来

2月4日(月)より、文研ホームページで申し込み受付〈参加無料〉

先着順で定員に達したプログラムより募集を締め切ります。

<http://www.nhk.or.jp/bunken/forum>

「いま、改めて問います。
メディアの公共的価値」



いま、改めて問います。「メディアの公共的価値」

英米メディア 新たな地域サービスをめざして

1 13:00～ Part I **研究発表** BBCスコットランド新チャンネル誕生!

2019年2月、スコットランドにBBCの新チャンネルが誕生。目指すのは、地域の視点にたったニュース、地域の文化に根づいた番組の放送です。BBCのローカルサービスの現状とその戦略に迫ります。 ゲスト：BBC関係者(予定) 報告：田中孝宜(文研)

～15:15 Part II **シンポジウム** 競争から協力へ 米国地域メディア連携の動き

米国では商業テレビや公共放送ラジオ、新聞などが、危機に直面する地域ジャーナリズムを「公共サービス」と位置づけ、連携する動きが広がっています。メディア連携がもつ可能性を現場の声を交えて探ります。

ゲスト：米メディア関係者(予定) 報告・司会：青木紀美子(文研)

2 15:30～16:15 **研究発表** 米国 地デジ次世代規格ATSC 3.0最新状況 ～地方放送局が考えるメディア戦略～

インターネットと同様、モバイル端末での受信、双方向コンテンツ、デジタルマーケティングを可能にするATSC 3.0。その導入の動向を、アリゾナ州フェニックスで行われている実証実験の最新情報を交えて報告します。 報告：大塚 敦(文研)

3 10:00～11:30 **ワークショップ** WEB式世論調査の可能性 ～幼児視聴率調査の実例をもとに～

文研が2016年から研究している新たな世論調査方式の「無作為抽出した調査相手に郵送で協力依頼し、WEBやアプリで回答してもらう方式(WEB式)」について報告し、世論調査を巡る今日的な課題を考えます。

討論者：佐藤 寧(日経リサーチ ソリューション第1部・世論調査部部長)

報告：田中悟史(ビデオリサーチ 統合調査業務局チーフリサーチコーディネーター) 行木麻衣・萩原潤治(文研) 進行：星 暁子(文研)

4 13:00～14:15 **研究発表** **シンポジウム** 世論調査から探る人々のニュース・情報選択 ～メディアは社会をつなげるか～

人々はいま、どのように世の中の動きを伝えるニュースや情報に接しているのでしょうか。これからのメディアに求められる役割を、文研の最新の世論調査の結果をもとに、メディアの専門家や学生とともに探ります。

ゲスト：渡邊久哲(上智大学文学部教授) 丹羽美之(東京大学大学院情報学環准教授) メディアを学ぶ大学生 報告・進行：保高隆之(文研)

3/7[木] 5 13:30～16:00 **ワークショップ** NHKドキュメンタリーから聞こえる声

NHKドキュメンタリーの制作手法は経年的に変化しています。かつての傑作ドキュメンタリーを見ながら、インタビュー、ナレーションなど番組内の「声の形式」に注目して、現代に至る制作手法の変化を見ていきます。 問題提起者：宮田 章(文研) 司会：原 由美子(文研)

6 14:30～15:15 **研究発表** 有料動画配信はどこまで拡大するのか ～「メディア利用動向調査」を読み解く～

NETFLIXとAmazonの日本上陸から3年が経過し、今や放送事業者も積極的に展開している有料動画配信。ユーザーにどのように使われており、今後サービスは拡大していくのか、世論調査の結果から考えます。 報告：黛 岳郎(文研)

7 15:30～17:10 **研究発表** **シンポジウム** これからの“放送”はどこに向かうのか? ～2030年に向けて～

高齢化、過疎化、経済格差、そして多発する災害…。課題が増大する日本社会の中で、放送事業者はどのような役割を果たしていくべきか。その際の制度的枠組みや体制とは? 中長期的視点で考えます。 報告・進行：村上圭子(文研)

8 10:00～12:00 **シンポジウム** 共生社会実現と放送の役割 ～東京2020パラリンピックをきっかけに～

東京2020パラリンピックに向けて「共生社会」実現の機運が高まる中、放送が果たすべき役割とは? 「自国開催」の好機を生かし、大会終了後も持続的にその役割を果たすためのヒントを、海外事例などを交えて考えます。

パネリスト：マセソン美季(長野パラリンピック金メダリスト・IOC・IPC教育委員) エイド・ロウクリフ(英ITVダイバーシティ責任者・元チャンネル4コミッショナー) 樋口昌之(NHK2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部副本部長) 報告：渡辺誓司(文研) 司会：山田 潔(文研)

9 13:30～14:30 **研究発表** 「日本人の意識」調査にみる45年の変化 ～昭和から平成へ日本人はどう変わったのか～

1973年から5年ごとに行っている世論調査「日本人の意識」から、家族・男女関係の質問を中心に、最新の結果と45年間の変化を報告します。後半では、近年の日本の家族の変化や今後についてお話をうかがいます。

ゲスト：稲葉昭英(慶應義塾大学文学部教授) 報告：荒牧 央(文研)

3/8[金]

10 14:45～17:15 **シンポジウム** **検証** 100% 朝ドラ!! ～視聴者と歩む 過去・現在・未来～

4月から放送の『なつぞら』は朝ドラ100作目。1961年の放送開始以来、朝ドラが途切れることなく継続してきた意義について徹底的に検証し、さらには朝ドラが好まれる理由をヒントに今後のテレビの役割を考えていきます。

パネリスト：稲垣恭子(京都大学大学院教育学研究科教授) 藤田真文(法政大学社会学部教授)

鈴木謙介(関西学院大学社会学部准教授) 矢部万紀子(コラムニスト) 若泉久朗(NHK札幌放送局長・元ドラマ部長)